

目指す学校像	学校の伝統と地域の実態を踏まえ、「人に学び、社会に学び、自然に学ぶ」魅力ある学校
--------	--

重点目標	1 教育のDXで実現させる学びの自律と個別最適化そして探究化 2 一人ひとりの多様な幸せ (Well-being) を実現する未来の教育の実現 3 創立150周年記念事業に向けた取組等を、コミュニティ・スクールを通して推進 4 子どもの可能性を最大限に伸ばす教職員の資質向上研修の充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学校運営協議会による評価				
年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和6年2月8日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<現状> ○昨年度の全国学力・学習状況調査では、これまでと比べ、国語・算数・理科ともにやや改善が見られた。市の学習状況調査では、市平均を下回っているものが多い。 ○日々の学習の様子を見ると、配慮や支援が必要な児童が多い。 <課題> ○市の学習状況調査の結果分析から、国語・算数では基礎的・基本的な内容の定着、また問題の意図を読み取る力をつけることが必要である。 ○児童一人ひとりが主体的に学び、また ICT の効果的な活用をした授業実践については学校全体で取り組む必要がある。	・基礎学力の確実な定着 ・1人1台端末を効果的に活用した授業の日常的な実践	①全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査の結果から、基礎学力の定着、読解力の向上を課題とし、日々の授業改善に繋げる。 ②「これまでの授業」と「1人1台端末を効果的に活用した授業」のベストミックスを図り学びの自律、個別最適化を実現する。	①全国学調・市学調の結果を分析し、各学年等で身に付けさせたい力を明確にできたか。学校評価職員アンケートにおいて、学力、授業改善の項目で肯定的な回答85%以上になったか。 ②学校評価アンケートにおいて、肯定的回答85%以上となったか。	①今年度の全国学調の結果を分析し、読解力や情報活用力にやや課題が見られる。全ての学力のもとになる基礎学力の定着も必要であった。学校評価職員アンケート肯定的回答85%以上 ②学校評価保護者アンケートでは、肯定的回答85%ではあったが、ICTを効果的に活用した授業の実施については、職員アンケートで75%にとどまり、職員によつての差や十分活用までに至っていない。	B	①②学習規律の確立、基礎学力の定着、付けたい力を明確にした授業の実施し、併せて学校課題研修においてICTを活用した学びの推進していく。「学びのポイントを生かした」授業改善	・学習規律や基礎学力の定着は繰り返し取り組むことで身に付くものであり、今後も継続して欲しい。 ・馬宮東小の地域人材を生かし、子どもたちにも知ってもらう機会にし、学びを充実させて欲しい。
2	<現状> ○不登校傾向や医療的ケアを必要とする児童、配慮や支援を必要とする児童等があり、それぞれに合わせた対応が必要である。 ○人間関係の構築に不安を感じたり、様々な環境へ対応することが難しかったりする児童が増えている。 <課題> ○児童一人ひとりの状況を的確に把握し、適切な支援を組織的、計画的に行える体制を充実する。 ○すべての児童にとって馬宮東小学校が居場所となる。	・児童一人ひとりの多様な幸せのためのきめ細やかな支援・相談体制の充実 ・学校生活や人間関係に不安を抱える児童への学校での居場所づくり	①月に1度の生徒指導委員会において児童の様子を全職員で共有を図り、組織的、継続的な対応、きめ細やかな支援をする。 ②担任や担当からの情報が管理職に報告しやすしい仕組みを作り、見届けを確実にを行う。	①月に1度の生徒指導委員会に児童の情報共有、組織的、継続的な対応、きめ細やかな支援体制づくりができたか。学校評価アンケート肯定的回答85%以上となったか。 ②学校評価アンケートにおいて、肯定的回答85%以上となったか。	①月1回の生徒指導委員会や随時校内委員会を通して児童の実態把握、情報共有、組織的、きめ細やかな支援体制づくりができた。学校評価保護者アンケート肯定的回答88% ②管理職への報告、情報共有は随時であり、今後も継続、確実な対応、見届けをする。学校評価職員アンケート 肯定的回答85%	A	①児童の抱える問題に多様化が見られ、教職員が研修等で対応策を学んだり、組織的な対応・体制を見直ししたりしていく。 ②管理職への迅速な報告、情報共有、見届けを学年主任や分掌主任などに随時行う。また必要に応じて、関係職員との連携を行っていく。	
3	<現状> ○今年度創立150周年を迎え、記念事業を学校・家庭・地域が協働して取り組んでいる。 ○150周年記念委員会の児童が中心となって、スローガンやキャラクターの応募や選定など行っている。 <課題> ○コミュニティ・スクール体制を具体化、明確化し、学校運営協議会を通して、SSN 連絡協議会等への連携・強化を図る。 ○学校・家庭・地域での取組として「読書に親しむ活動」を推進してきたが、習慣付けまでには至っていない。新たな策が必要である。	・150周年記念事業に向けて、学校、家庭、地域が協働し、児童の笑顔や学校への思いの創出 ・「読書に親しむ活動」の一層の推進 ・コミュニティ・スクール協働体制の構築	①学校・家庭・地域が連携・協力して150周年記念事業を創出し、コミュニティ・スクール体制を具現化する。 ②児童主体の150周年記念委員会を立ち上げ、様々な取組に参画しエイジェンシーを育む。	①学校・家庭・地域が連携・協力して150周年記念事業を実施することができたか。 ②児童主体の150周年記念委員会や祝う会を実施後、振り返りから学校への思いを児童一人ひとりが深めることができたか。	①学校・家庭・地域で連携・協力して150周年記念事業を実施することができた。子どもたちが馬宮東小の児童であることに誇りがもてたのではないかと感じた。 ②150周年委員会や各学年の児童が中心となって祝う会を実施した。振り返りでも、それぞれの学年のよいところや達成感を感じる言葉が多く見られた。	A	①②行事や日々の学校生活の中で目標をもち、達成するために努力する大切さ等、学級、学年、学校全体で次年度以降も継続して取り組み、児童の自己肯定感を高めていく。	・記念式典での講演者と児童とのやり取りが微笑ましく、日頃から担任と子どもたちとのやり取りが想像でき、子どもたちが育てているのではないか。 ・地域で出会うと気持ちのよいあいさつやお礼などが言える子どもが多いように感じる。「やさしい」心が育ってきているのではないか。
4	<現状> ○ICTを活用により業務改善は少しずつ進んでいる。一方、ICT活用の経験が少ない教員からは不安の声もある。 ○年度当初は授業準備、児童・保護者対応等で業務過多の状況が見られる。 <課題> ○授業でのICTの効果的な活用について、定期的な校内研修を実施し、教職員の資質向上を図ることが必要である。 ○業務のスリム化、分掌内の連携等、随時見直すとともに、教職員が安心して業務に取り組める環境づくりが必要である。	・学校職員一人ひとり、また組織としての力を発揮し、馬宮東小学校の誰もが居心地のよい、働きがいのある学校	①年間を通してICTの効果的な活用についての研修計画を立て、エバンジェリスト中心に実施する。また、学校課題研修については、児童の実態、教員の願いを踏まえて学校としての方向性を定める。 ②人事評価制度を活用し、全ての教職員の資質向上や授業改善に繋がる研修について、目標設定、振り返りを行う。 ③業務の精選や各行事の反省をもとに、適宜業務の見直しを図り、教職員の負担軽減、時間外勤務時間の削減に繋げる。	①年間を通してICTの効果的な活用についての研修計画をもと、エバンジェリスト中心に定期的実施できたか。学校課題研修について、研修内容、方向性を2学期中に明らかにできたか。 ②人事評価制度を活用し、全ての教職員の資質向上や授業改善等について、振り返りシートを生かすことができたか。 ③業務の精選や見直しを図るなどし、学校評価職員アンケート肯定的回答85%以上、職員の時間外勤務時間昨年度より5%減ができたか。	①年間を通してICTの活用についての研修計画を立て、予定通り実施した。今年度の学校課題研修については、昨年度の研究をベースに各学年1回の研究授業、ブロック学年での研究協議会、Teamsでの情報共有を行えた。 ②人事評価中間面談を今年度実施し、研修や働き方など教職員とコミュニケーションを図り、それぞれの思いや願いを知り、指導・助言を生かすことができた。 ③業務改善案を職員に提示し、教務の精選、働き方への意識に繋げることができた。一方、時間外勤務時間については、11月期で昨年度と比べると1%減にとどまった。	A	①次年度新たな学校課題研修を活用し、授業改善、資質向上、ICT活用力の向上に取り組んでいく。 ②人事評価制度とともに、日頃より教職員との良好な人間関係を構築し、資質向上、働き害のある職場環境づくりを行っていく。 ③業務の精選、働き方改革を次年度以降も進め、教職員の負担感の軽減、働きやすい職場環境づくりに努める。	